

意匠計画の考え方

Idea of design plan

3地区全体を独自の・先端的な学術研究、創造性豊かな人材育成を図るのに相応しいイメージとし、国際社会の中で躍進的な先端医療を彷彿させるデザインを表現する。3地区はそれぞれの機能にあわせた意匠表現を施し、全体の調和がとれたキャンパスとしてのイメージにも十分配慮する。北地区については、医学部と附属病院の2本柱で構成されており、視覚的に分かり易いファサードデザインを考慮する。また患者など一般来訪者が多いため、各建物へのアプローチが分かり易い外構デザイン・サインデザインについても十分配慮する。付帯施設である駐車場等の建物については、無機質な圧迫感をなくし、周辺と調和の取れたデザインを検討する。中地区については、従来の学内共同のCOE(センター・オブ・エクセレンス ー研究拠点ー) デザインである白色2層の基壇を継承し、研究ゾーンとしての機能的デザインをアピールしたものとする。

アメニティ空間の整備計画

Maintenance plan of amenity space

1) 屋内アメニティ空間の整備イメージ



■現在の附属病院待合

■外来診療待合の改修イメージ

附属病院・患者のアメニティー向上
外来診療待合の改修イメージ。現在、臓器別・系統別毎の診療ブースの設置とオーダーリングによる予約制の採用等により、待時間の短縮など患者サービスの向上を図っている。今後は、これら患者サービスに加え、狭隘・老朽化している待合空間を改修整備し、更なる患者アメニティーの向上・充実を図る。



■ラウンジ・リフレッシュスペースのイメージ



■本荘キャンパス敷地南側からの航空写真

2) 屋外アメニティ空間の整備イメージ



■緑化されたコミュニティスペースのイメージ

医学部・学生のアメニティー向上

学生や教職員のコミュニケーションと情報発信の場として利用できる空間を形成する。リフレッシュ・談話スペースや、イベント会場としても利用できるフレキシビリティの高い空間を整備し、学生アメニティーの向上を図る。

外部空間のアメニティー向上

隣棟間など、敷地内のスペースを積極的に利用する。緑を多く配置し、ベンチなどストリートファニチャーの整備を行い、憩い・コミュニケーションの空間として形成する。また緑地空間や広場との連携を図り、柔軟性に富む豊かな空間を創造する。

CONTENTS

1. 施設整備の基本方針
 - 1.1 熊本大学の理念・目的・目標
 - 1.2 熊本大学組織図
 - 1.3 大学施設整備の目的・目標
 - 1.4 キャンパス計画のコンセプト
2. キャンパス概要
 - 2.1 キャンパス位置図
 - 2.2 現状施設
 - 2.3 経年別建物配置と現状施設データ
3. キャンパス計画・施設整備の将来構想
 - 3.1 施設整備の将来構想
 - 3.2 キャンパス計画各論

3.3 意匠計画の考え方 3.4 アメニティ空間の整備計画

4. 将来構想に向けた具体的な整備方針と整備計画
 - 4.1 施設整備の方針
 - 4.2 施設整備計画